



5. かわってきた人々の暮らし

めあて

地いきの人々の暮らしはどのようにかわってきたのでしょうか。

[1] 古い道具と昔の暮らし

(1) 昔調べ

ろみさんたちは、これまでの学習で、今の町の様子や人々の仕事について調べてきました。それらをもとにして、わたしたちの町の人々の暮らしが、どのようにうつりかわってきたのかを調べてみることにしました。

つかむ

今と昔の暮らしでは、どのようなちがいがあるのでしょうか。



「上の左の写真はミシンだね。家のミシンとも学校のミシンとも形がちがうみたい。」



「右の道具は何に使う道具かな。」



「まん中の大きなはこは何だろう。金庫みたいだね。」

クイズコーナー

右の2まいの写真は何の道具かな？



(2) 古い道具を持ちよって

ろみさんたちは、昔の人々の暮らしを知る手がかりとして、昔の道具をさがして持ちよることにしました。

よしとさんは近くに住んでいるおじいさんの家に行って道具をさがしたり、話を聞いたりしてすることにしました。



教室に持ちよった昔の道具をみんなで見たりさわったりして使い方を話し合いました。

みんなから、もっとたくさんの道具について調べてみたいという意見が出されました。

・道具の名前は？ ・何に使うの？ ・いつごろ使っていたの？

(3) 昔からの道具を体験してみよう

ろみさんたちは、持ちよった道具や学校にのこっていた昔からある道具をじっさいに使って、感想を話し合いました。



寒い冬でも、ふとんの中に足を入れるとぽかぽかして気持ちよかったわ。



つかむ

わたしたちのまわりには、どのような古い道具がのこっているのでしょうか。

てびき

大きなものや大切なものは絵にかいたり写真にうつしたりして、持ってきてみましょう。

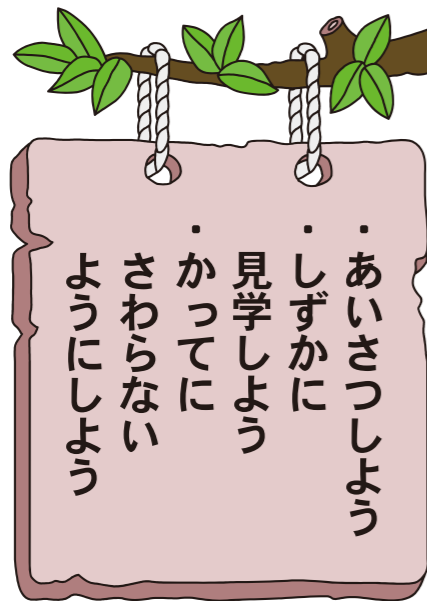
(4) ふるさと資料館しりょうかんに行ってみよう

つかむ

ふるさと資料館にある古い道具は、どのように使われていたのでしょうか。

ろみさんたちは、昔むかしの暮らしについて、もっとくわしく調べるために、ふるさと資料館へ見学に行くことにしました。

みんなは、しせつの見学で大切な約そくを話し合いました。また、できるだけたくさんやくの道具を絵や文でまとめる計画をたてました。



「総研そうけんに行った時、見たことがあるよ。」



「いつごろの道具か調べてみたいね。」



「使い方つかを考えたり、見学の感想かんそうを話し合ったりしましょう。」



「わからないことは質問しつもんできるかな。」

見学カードやノートをじゅんびして行こう。

道具の名前	アイロン
絵	
(昔のアイロンはどんな形かな)	
わかったこと・思ったこと	

道具の名前	
絵	
わかったこと・思ったこと	

(5) 道具年表ねんびょうにまとめてみよう

ろみさんたちは、見学してまとめた見学カードやノートを見ながら、今の道具とのちがいを話し合いました。そして、それぞれの道具がどのように変わってきたのか、よくわかるように道具年表にすることにしました。

つかむ

道具のうつりかわりは、くらしをどのように変えたのでしょうか。

ことば

●年表

昔から今まで、年月じゅんばんの順番に、おきたできごとなどを、表にまとめて見やすくしたもの。



「くらしの道具についてまとめてみたいな。」



「遊び道具や食べ物は調べられるかな。」



「資料館でわからなかったことは、図書室の本やインターネットで調べてみよう。」



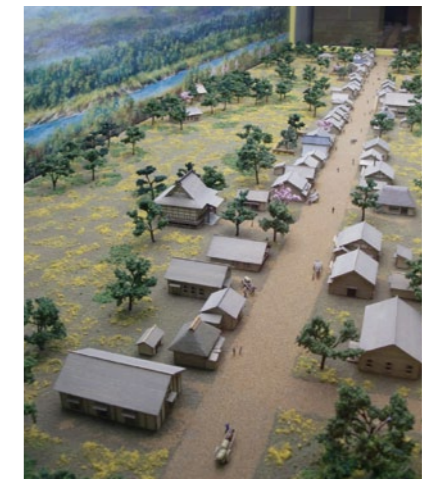
「昔の人の知恵えや努力どりよくで、くらしが便利べんりになったんだね。」



「道具はくらしをより良くしようとする人々の願いねがで変わってきたのですね。」



ふるさと資料館
明治時代に、岐阜県美濃地方から開たく団が今の土幌町にやってきました。
その当時の生活用品や農具のうぐをてんじし、くらしの様子ようすを生き生きとさいげんしてあります。



まぼろしの寺町(昔の中土幌)

(6) ふるさと歴史めぐり

つかむ

士幌町の昔の様子がわかるものや、古くからのこっているものにはどのようなものがあるのでしょうか。

てびき

右の写真は昔の士幌のまちの様子です。今とくらべて、変わっているところはどこか考えてみましょう。

これまで、昔の道具や人々のくらしのうつり変わりを調べてきました。ろみさんは、道具を調べるうちに、町の中にも昔の様子がわかるものはないか、さがしてみたくになりました。

1925(大正15)年当時の士幌市街



美濃の家→
士幌町は岐阜県美濃地方の農民によって開たくされました。その美濃地方の農家の様式で建てられた建物。

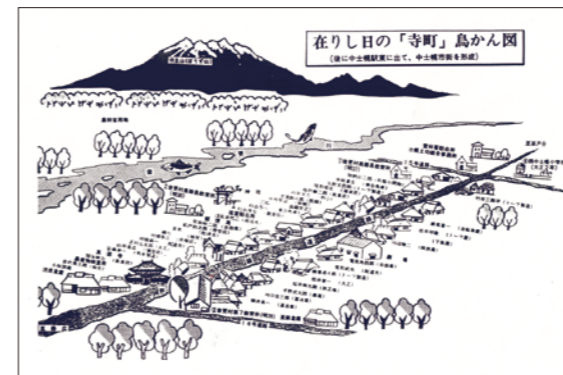


↑ 士幌の町が生まれた場所を記念してたてられた「石ひ」。

- 1883 (明治16)年 晩成社の人たちが帯広を開たくする。
- 1889 (明治31)年 美濃地方の人たちが士幌を開たくする。
- 1903 (明治36)年 松浪りょうはんというお坊さんが寺子屋を作る。
- 1906 (明治39)年 中士幌に駅が出来る。
- 1915 (大正 4)年 中士幌に医者が開業。
- 1920 (大正 9)年 中士幌～帯広に乗り合い馬車が通る。
- 1925 (大正14)年 士幌市街に電とうがつく。
- 1926 (昭和元年) 川上村が士幌村になる。
- 1931 (昭和 6)年 士幌から上士幌が分れる。
上士幌～帯広にバスが通る。



士幌町の年表などを使って、町のあゆみを調べてみましょう。



昔の中士幌市がい



旧士幌駅



「だれも住んでいない土地を、人が住めるようにするなんてすごいな。どんな苦勞があったんだろう。」

ことば

●開たく

山や森を切り開いて、畑や道を作り、人が住める土地にすること。

ろみさんたちは、士幌の町が開たくされたころの人々のくらしについても調べることにしました。

クイズコーナー

下の4枚の写真は開たくのころ、使われていた道具です。それぞれどのように使われていたのでしょうか。



プラウ

馬にひかせて畑をおこす道具



足ふみ脱穀機

足でふんで回しながら、実をしゅうかくする道具



水田直播機

水田に種もみをまく道具



とうみ

もみにまじっているもみがらやごみを取りのぞく道具

◆◆◆開たくのころの人々の暮らし◆◆◆

開たくのはじめは、太い木を切りたおし、材木として使う分をのこしてやきました。そして、太さが1メートルもある大きな木のかぶとかぶの間に少しずつ畑を作っていました。大きな石がゴロゴロありましたが、当時は機械もなく、馬にたよるしかなかったので、たいへんな仕事でした。

住

家はみんなほったて小屋でした。屋根もかべも草ぶきでした。くぎがなかったので、柱はやちわらでしばっていました。小屋の中にはほし草をしき、その上にむしろをしいてくらしていました。まども戸もむしろで、小屋の真ん中には「ろ」という木をもやすどころがあって、今のストーブのかわりをしていました。



食

米はお正月とか病気の時に食べるように大事にしまっておきました。ふだんは、いなきび・むぎ・そばなどを食べていました。みそやしょう油もなく、みんな塩味でした。



ことば

●きやはん

すねの部分にまく布や皮でできたもの。

衣

着ているものは、みんな着物でした。男の人ののら着は、ひざまでの着物にももひきをはき、その上に「きやはん」をつけ、足には手でぬったそこのあつい「たび」をはいていました。女の方は、かすりの着物にだぶだぶのもんぺでした。

◆◆◆道路や鉄道のできたころ◆◆◆

道路のはじまり

1898(明治31)年、小椋忠左衛門という人が岐阜県から移民団の人たちと中士幌の下台のあたりに住みつく前に、囚人たちが木材を運び出す道を作っていました。

その道は「かりわけ道路」といわれ、草をかき分けながら通る細い道でした。

川も大事な交通路でしたが、橋はなく、わたし船を使ったりあさい所を歩いたりしてわたっていました。

道路ができてから

畑でとれた作物を売るために、はじめは人が背負っていましたが、馬の背に乗せるようになり、次に馬車で運ぶようになりました。しかし、春先には道がぬかるみ、冬はふぶきで通れなくなることもありました。

十勝のあちこちに駆ていができ、中士幌にもできました。

1909(明治42)年ごろから大正時代にかけて「寺町」ができ、にぎわいをみせました。



まるき舟

かりわけ道

駆てい

1925(大正14)年帯広から士幌までの鉄道がしかれました。

鉄道ができて

中士幌では、小学校やお寺が高台へ、商店が駅前につつて、栄えていた寺町はまったくすがたを消したのです。

町の様子も人々のくらしも大きく変わりました。人々は市街で作物を売ったり、日用品や農具を買ったりすることができるようになりました。

開たく者もどんどん入ってきて、人口もふえ、町はいっそうにぎわっていきました。

鉄道のはい止

道路が良くなったことと、家庭に自動車がふえて、だんだん鉄道を利用する人がへってきました。

1987(昭和62)年3月、士幌線は人々におしまれながら、ついにはい止されました。



中士幌かんい教育所



開たくはじめのころの学校の様子



1932(昭和7)年ころの士幌小学校

(7) 昔の学校を調べてみよう

ろみさんたちは、これまで昔の道具や町の様子を調べてきました。調べているうちに、昔の子どもたちはどのように勉強していたのか調べてみたくなりました。

そこで、自分たちが通っている学校の昔の様子についても調べてみることにしました。

つかむ

自分たちの通う学校の今と昔では、どのような違いがあるのでしょうか。

てびき

学校の記念誌なども調べてみよう。

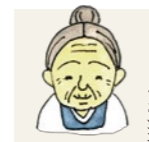
ことば

●配給

生活に必要なものが不足したため、自由には買えなくなり、決められた量だけ配られるようになった。



「おばあちゃんも同じ小学校だったんだって。昔のことを聞いてみようかな。」



昭和20年ころ、学校に通っていた子どもは500人くらいだったね。教科書は戦争のことが多かったね。弁当はいもやかぼちゃ、そばだんご。みんな配給だったよ。がまんのくらしだったね。防空頭きんをぶらさげ、豆をいったものをふくろに入れて学校に行ったよ。毎日、空しゅうにそなえて、ひなんくんれんや消火くんれんばかりしていたね。



「今より、子どもの数が多かったんだね。」



「士幌町にも戦争のひがいはあったのかな。」



1926(大正15)年:下台の中士幌小学校



1939(昭和14)年:士幌小学校運動会



美濃の家

[2] のこしたいもの、つたえたいもの

(1) 歴史たんけんたい

ろみさんたちは、これまでの学習で、地いきにのこる古いものをたくさん見つけました。そして、地いきにのこる古いものには、だれの、どのような願いがこめられているのかを調べて発表し合うことにしました。

つかむ

地いきに古くからのこっているものには、どのようなものがあるのでしょうか。

●調べること

昔から続く祭り

●調べ方

- ・士幌町や自分たちの住む地いきのお祭りについて、町史で調べたり地いきの方々に聞いて調べる。



●調べること

史跡や記念ひ

●調べ方

- ・「しほろ史跡イラストマップ」で町にのこる史跡を調べる。



●調べること

地いきに伝わるおどり

●調べ方

- ・活動の様子を見学する。
- ・しどうしている方や保ぞん会の方に、歴史やいわれなどについて話を聞く。



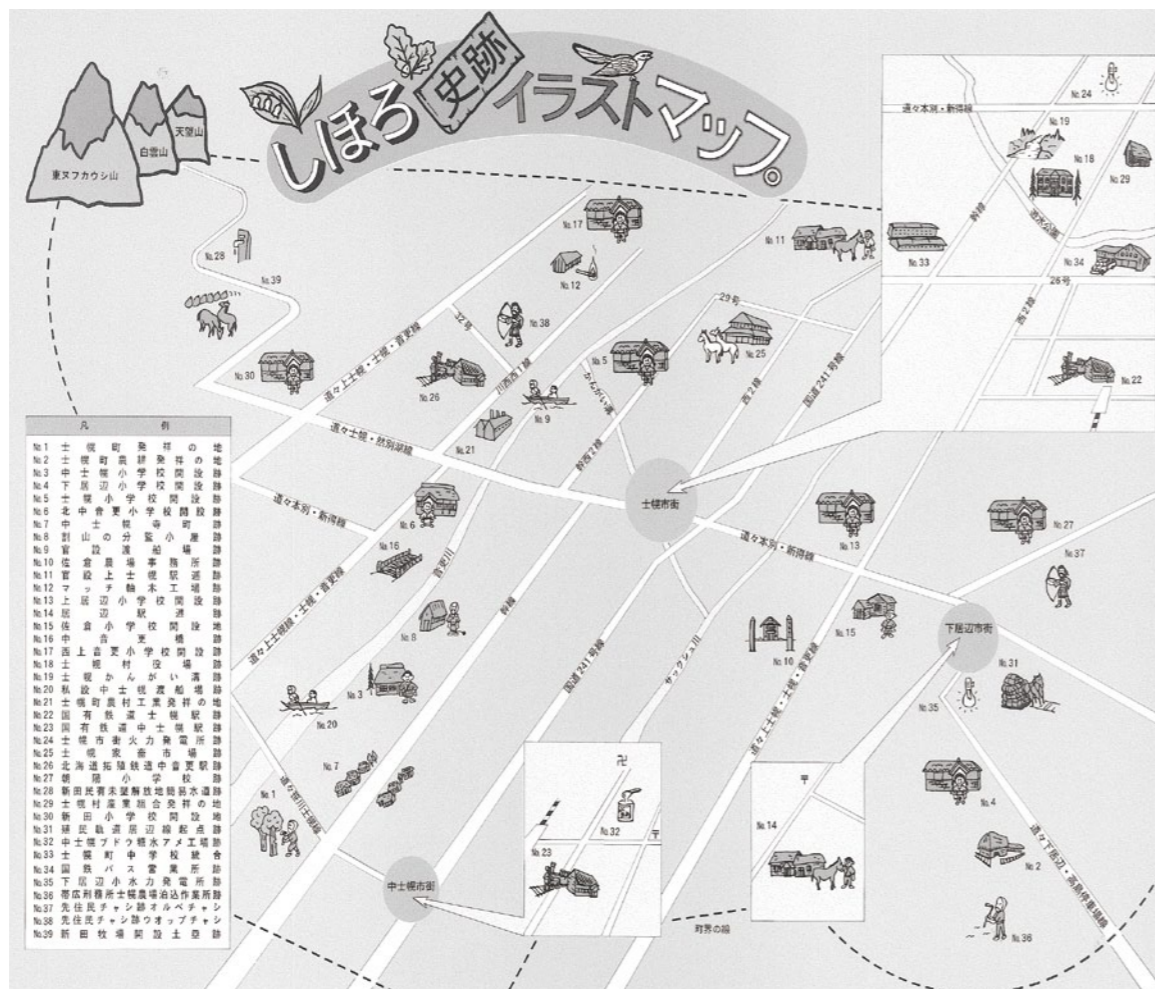
ことば

●史跡

歴史上大切なできごとや建物のあった場所。

てびき

教科書上112～119ページをさんこうにして、学習を進めましょう。



ゆうすい 遊水公園

(2) これからの士幌町

これまで、昔の人々のくらしの様子について学習してきました。そこで、これからのわたしたちの町が、どんな町になってほしいか話し合うことにしました。



「みんなが元気でけんこうでいられるといいな。」



「公園や道路がいつもきれいだとうれしーいね。」



「おいしい作物がいっぱいとれるのはじまんだね。」



「これからもいっぱい勉強やスポーツがしたいな。」

つかむ

これからの士幌町について、みんなの願いを話し合みましょう。

てびき

士幌町ではどのような町づくりを進めようと計画しているか調べてみましょう。



「7000人祭りだね。毎年行っているよ。」



「これは、士幌高原太鼓だね。」



左:すこやか体育館
中:したしみ図書館



右:士幌町の農業